

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合い、「一人一人ひとりの笑顔を大切に互いに支えあい共に生活します」との水海道そよ風独自の理念がある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念の実践のため、利用者が毎日笑顔で過ごすことが出来るよう、職員自らが笑顔で接し、時にはスキンシップを図り共に生活している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホーム玄関の見やすい所に理念を掲示した他、入居時に家族に説明している。地域の人々には大きな行事を行う際に来所いただきご紹介している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃から隣近所の人とは気軽に言葉を交わしている。又、駐車場前の畑をしている住民が時々季節の花を持ってきて下さる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、市の一斉清掃等に参加し、町内の人々との交流を図っている。又、市の伝統的な行事7月の祇園祭、新年2日には町内会の演芸部による獅子舞の披露などをゆっくり見物することが出来、懐かしさに涙する方もいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市の一斉清掃に職員と利用者で参加している。地域の 高齢者に役立てることはないか運営推進会議にて提案し民生委員の方から、一人暮らしの高齢者の情報をもらい、困った時はいつでも相談を受けられる体制があることを伝えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループ会議で外部評価の意義や前回の評価を伝え、職員全員で具体的な改善をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前に家族会において運営推進会議についての意義を説明し、理解を求め、家族会の中での意見が運営推進会議で活かされ更にサービス向上に活かしている。評価への取り組みも同様である。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム管理者は市町村担当者と運営推進会議以外でも、行き来があり、ホーム側から相談する事柄があった場合、気軽に相談出来る関係がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度、及び地域権利擁護事業を利用している方がおり、学ぶ機会があった。今後も、必要な人には活用できるように支援をしていく。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを回覧し、マニュアルを手本に全職員で理解を深められるように勉強会をしている。（新入職員採用時、全体会議時）		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は必ず事前に自宅に出向き、本人・家族とじっくり話をしている。解約をする際は、十分な説明をし同意を得ている。長期入院によりホームに戻れない場合は主治医を含めた担当者会議の場において理解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱の設置 ・契約書に苦情相談窓口として連絡先を明記 ・家族会において意見を求めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、入居者の様子を伝える事、月間報告書・そよ風だよりにて、本人の様子やグループホーム全体の様子を伝えている。職員の状況は家族会において報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の実施により意見を聞くことと、意見箱を設置し苦情が寄せられた場合には対策等を検討して解答する取り決めがある。また、運営推進会議の家族の出席を輪番制にし、より多くの家族の意見を取り入れ反映させる体制がある。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター管理者は県内6ヶ所の系列の事業所で、毎月1回の会議に参加し職員の意見をその会議において問題提示し反映させている。またグループホーム管理者会議が新たに発足し、更に現場の状況について意見交換し運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に利用者や家族には、柔軟な対応を心がけ入居者や家族の状況の変化や要望に対して、即座に対応できる勤務体制がある。ユニット間での協力体制があり、必要な時間帯に必ず職員を確保している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や離職を最小限に抑える努力をしており、担当者が変わる場合は、利用者の状態を考慮し、全職員でサポートしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は1年の計画の中で職員育成の計画を立てており、毎年6月に実施される運営者主催の会議において発表し、センターの全体会議の場でも職員に伝えている。又社外研修のお知らせも常に職員に伝え、必要な研修には参加してもらっている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内外の研修に積極的に参加し研修後には報告書を作成しグループホーム会議やセンターの全体会議において報告、伝達し、他の職員に周知できるように取り組んでいる。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	センター管理者は1年に1度職員全員と面談し悩んでいることはないか等、話をする機会を作っている。また職員同士良い雰囲気の仕事に取り組めるよう、意見交換し働きやすい環境づくりをしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に1度は必ず全員参加の出来る会議を行い、個々の意見を尊重し皆が互いに教え合う場面がある。そのことにより、更に個々のスキルアップが出来、意欲向上に繋がっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに本人と面接し、困っている事不安なこと等を聴く機会を必ず作っている。求めていることに関しては言葉にして伝えることが出来ない方が多く態度や表情などから探り、些細な事でも見のがさず受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様である他、家族から特に生活歴については、その都度、情報提供をしてもらい本人の生活に活かせるヒントを頂き職員間で情報の共有をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談業務を行っている職員が、開設当初からの職員で初期対応で必要としている支援を見極める力があり身体状況の著しい変化や、家族の希望なども含めた対応を行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、本人、家族に見学して頂き今までの生活リズムをなるべくくずさず、安心して生活出来るよう意見や要望を取り入れている。入居して初期の段階では孤立させない配慮をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に、利用者本意に行動しており、衣・食・住・遊を共にしているため本人から学ぶ事も多く、その際には必ず感謝の言葉を伝えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した際には、必ずコミュニケーションを図るよう心がけており、積極的に利用者の状況を伝え、一緒に本人を支えていく関係作りをしている。最近の状況を伝えることで、家族が本人に電話をくれたりすぐに会いに来てくれたりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者一人ひとりと、家族の交流が入居当初よりも活発である人と、職員からの働きかけによってはではない人と、さまざまではあるが入居者と家族が交流できる運動会や納涼祭の案内の手紙には、利用者直接の手紙を添え参加を促している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人とのふれあいの場面では、プライバシーに配慮し、尋ねて来た方がゆっくり話しが出来るように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の性格や社交性をふまえ、気の合う仲間が出来るよう職員が間に入ってきっかけを作ったり、良い所を互いにアピール出来るよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院となりホームに戻れなくなった場合でも、そよ風に戻りたいとの希望が多いため、本人の容態が安定したらいつでも相談を受けられる体制を整えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の希望、意向等を引き出せるように自己決定や選択の場を増やし本人のペースに合わせて接している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を知り一人ひとりが暮らしの中で力を発揮できるように園芸用品、裁縫道具、掃除用品（和ぼうき、趣味の品等）を取り揃え、場面に応じ活躍していただいている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録やケース記録に入居者個々の特徴や変化を記録し、職員間で情報を共有し入居者一人ひとりが本人のペースで生活出来るように努めている。 ・朝食後休みたい方、昼食後休みたい方、入浴後休みたい方等、その他様に対応している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり家族や本人から事前に情報を聞き、更に職員の気づきを大切に課題を明らかにしている。定期的なカンファレンスの他、一人ひとりのその時の状態に即した介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間終了を目安に達成状況や計画が本人の現状に即しているか検討し、状態に変化が生じた場合カンファレンスを行い職員から情報収集をし、統一した援助が出来るように計画の見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1回のホーム会議の場でユニット間での話し合いをし、その後は互いのユニットが協力し合えるために話し合いの内容を報告し合い、全職員で情報の共有に努めている。更に会議の場では職員が自由に気づいたことを述べられるよう普段からコミュニケーションを図り情報収集する工夫をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族から宿泊の希望があった際、急な場合でも要望に応じている。又、通院の要望にも対応している。・昼食時に面会に来られた家族には利用者と一緒に召し上がってもらうこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・行事等、ボランティアを招き、入居者に喜んでもらっている。他、2ヶ月に一回民生委員が訪問してくれる。・市内、外の小中高生の社会学習の一貫として学びの受け入れを積極的に行っており、利用者にとっては孫とふれあうように楽しみにしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者、ケアマネジャーが中心となり他事業所のケアマネジャーとの交流をもっており、必要に応じ支援できる体制がある。「市・ケアマネ会」		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護のサービスを利用している入居者がおり、担当者とは1ヶ月に一回ケアマネジメント等について話し合う機会がある。又、センター管理者は地域包括支援センターの職員と交流があり、必要に応じて相談出来る体制がある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>現在の生活の様子、介護計画等必要な情報は家族と話し合い提供し、医療面では主治医から情報提供書を発行してもらい、住み替え先でも今の暮らしが継続出来るように、関係者に情報提供している。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者1人ひとりに合わせた言葉かけや対応を行っている。特にトイレの誘導の言葉かけには一人ひとりの対応の仕方があり、プライバシーに配慮している。記録は鍵のかかるキャビネットで保管し、その他のものは利用者や面会者の目に触れない取り扱いを徹底している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>障害により言葉で思いを伝えられない方、難聴でコミュニケーションのとり難い方、様々な状況の中一人ひとりの思いがキャッチできるような働きかけをしている。食事でむせ込みが見られる方は車椅子での食事を止め、椅子に移乗し食事をしていただき、食後はソファで休んでもらっている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日によって遅くまで寝ていたい利用者には休んでもらう、食事に時間がかかる利用者には食べ終わるまで皆で待つという体制が取られ、利用者の希望に添った支援を実施している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>生活の場面や季節に適した服装ができるよう支援している。理美容は定期的に訪問美容室を利用し、本人、家族の希望を聞き行っている。 ・センター職員の中にハートフル美容師がおり、顔そりやマッサージをしてもらっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、財布を持ってもらい支払いをする援助をしている。 ・センター1階に設置されている自販機で自らが小銭を入れ、飲みたいものを選んでもらう事を支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に出る際はなるべく利用者を連れ出し、天気の良い日は1階に降りベンチでお茶を楽しんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との花見会や、ドライブ、ペットショップへ動物を見に行ったりと、外出先に関しては思考をこらし行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がきた時は、本人と話をしている。その他、希望に応じて電話の利用を支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は歓迎しているという気持ちが伝わるよう、笑顔で声をかけお茶を出し、利用者の最近の様子や世間話などをし、とゆっくり過ごして頂けるようにこころがけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員が入って来た際には、必ず身体拘束に関してのホームの指針を指導し、全職員が身体拘束を行わない介護を実践している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>地域の人々を巻き込んだ形での避難訓練はまだ行っていないため消防署に協力してもらい実施したい。その場合どのように行えばいいか解らない。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	<p>入居時に家族には事前に説明し、身体状況に変化があった場合は職員全員が状態を周知しリスクを未然に防ぐ対応と、起きた場合の対応は十分に家族に説明する体制になっている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>身体状況には常に目を配り、異変や変化が見られる時には、バイタル測定を行い、必要に応じて医師に相談している又、その変化やサインを記録に残し、申し送りも確実にやっている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方されている薬説を保管し、薬の目的や副作用を確認できるようにしている。また、何らかの心身上の変化がみられた場合には、その状況を家族や医師に伝え使用薬剤の見直しの相談をしている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>献立に乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れることと毎日、体を動かす工夫をし、自然排便を促す配慮をしている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、声かけをし、利用者1人ひとりのもてる力を発揮してもらいながら、口腔ケアを実施している。必要時には訪問歯科による治療を実施している。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の状態に合わせた食事量、水分量を職員が把握し、粥食、刻み食、体調の変化によってはその他の食事形態で対応している。食欲低下が著しい場合、エンシュアが処方され、栄養補給する場合もある。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関する予防策はマニュアルがあり、流行する前に全体会議の場で勉強会を行っている。マニュアルは全職員が目を通し、確認印を押し周知するという取り決めがある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士が主体となり全体会議の場で指導を受けている他、現場では手洗い、うがいの他ヒビスコールにて手指の消毒をしている。衛生管理については、マニュアル通り実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鉄筋の建物であるが、ホームの玄関周りには利用者、職員が共同して植えた草花が咲き誇り中に入ると常に、季節の花が生けてあり入りやすい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって居心地をよくする為、共用空間に季節に応じた花を飾り、季節感を取り入れてる。又、窓には障子があり光が直接入らない工夫がされている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースをうまく使い共有の空間でもそれぞれの居場所が確保できており、利用者同士で過ごす方もいる。独りになりたい時や、部屋で休みたい時は自ら行動し休息している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出すために、馴染みの物を持ち 込んで頂いている。食器・布団等使い慣れた物を 使用している。利用者によっては、家族の写真を 飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	暑い中、何枚も重ね着してしまう傾向があり、職 員は利用者の自尊心を傷つけないような言葉かけ をし、薄着になってもらうことや、寒い中くつ下 をはきたがらない利用者にも同様に言葉かけに配 慮している。換気は定期的に行い、冷暖房の温度 調節もこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっているが、入居者 個々の出来ること、出来ないことを見極めて見守 りを第一に考えた個別援助を実施している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	職員全員が入居者の生活歴を知り、活躍できる場 面を作り、その人らしい生活が継続できるような 支援を心がけている。(ホームの玄関周り、建物裏 側のゴミ置場周辺は利用者が掃除している)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	敷地内の草取り、玄関、ベランダでの園芸を実施 している。建物裏側のスペースで時々お茶の時間 を過ごしていると、近所の方が通りすがりに声を かけて下さる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)